

平成29年度 本郷地区の医療 と介護の連携を考える会

「地域包括システムにおけるかかりつけ医
(地域診療所)の役割」

平成30年2月14日

医療法人いなほ会 日高医院
院長 日高四郎

地域包括ケアシステムとは？

- ・2025年(平成37年)を目指し、
- ・高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、
- ・可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを
- ・人生の最期まで続けることができるよう、
- ・市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、
- ・住まい・医療・介護・予防・生活支援を地域の特性に応じて作り上げていく地域の包括的な支援・サービス提供体制。

本当にできるのでしょうか。

今後の在宅医療現場の現実

- 2025年75歳以上が2000万人を越えます。**6人に1人が75歳以上になります。**
- 2025年の医療は**81兆円**になると予測されています。2016年の医療費は**41兆円**でした。2017年の国家予算は97兆円です。今後国家予算が増えても**2025年には医療費が8割を占めることになります。**
- **財政破綻の状況**になります。
- 地方の在宅医療に携わる**医師、看護師、介護師**が絶対的に足りません。**医療関係者の高齢化**が加わると、2025年以降も**在宅医療を続けるのは困難**という問題が発生します。
- 家族も医療関係者も**過重労働**になっています。

- ・在宅医療は、基本的に介護ができる家族が居なければ無理です。
 - ・独居の場合、ヘルパー、訪問看護、訪問診療、ボランティアなど多くの人々が関わる必要があります。
 - ・経済的にある程度余裕がないと在宅医療は進みません。
-
- ・超高齢化で老老介護・認認介護が増えています。親が90歳以上になると、子供も65歳以上になります。子供が先に逝くケースも増えてきました。
 - ・元気な独居高齢者が増えました。自分で歩ける高齢者は、介護保険を有效地に使えません。自分らしく過ごしているようですが、食事、入浴、内服、室内の温度管理、衛生面の自己管理が難しくなっています。

- ・介護を受けるのは、高齢者ばかりではありません。
- ・若くして事故に遭った人や癌になった人、障害のある人、精神的疾患で仕事ができない人等、高齢でなくても介護を必要としている人々がいます。その方々を介護している高齢の親たちがいます。
- ・親の代わりに孫の子育てをしている高齢者もいます。
- ・現状は、ニーズが確実に増えるのにそれを支える人も金も足りない現状です。どうすればいいのでしょうか。

活動報告

自分流の地域への関わり

平成8年頃から、地域の農業のあり方に関する心を持つようになる。

農業者の高齢化。
後継者不足。
農地の荒廃。



農業者に指導を受け、
子供達も一緒に米作りを始めた。

地域の交流が始まった。





人生、最期は海を見たい。



近所の荒地をコスモス畑にして、
101歳の患者さんをおんぶして
コスモスを見に行つた。



まだ意識がはっきりしている内に
懐かしい人たちに会いたい



地域の荒地がどうしても気になる









空き地に患者さん宅のコスモスの苗を50本程植えた。
そして地域のリーダーとの出会い



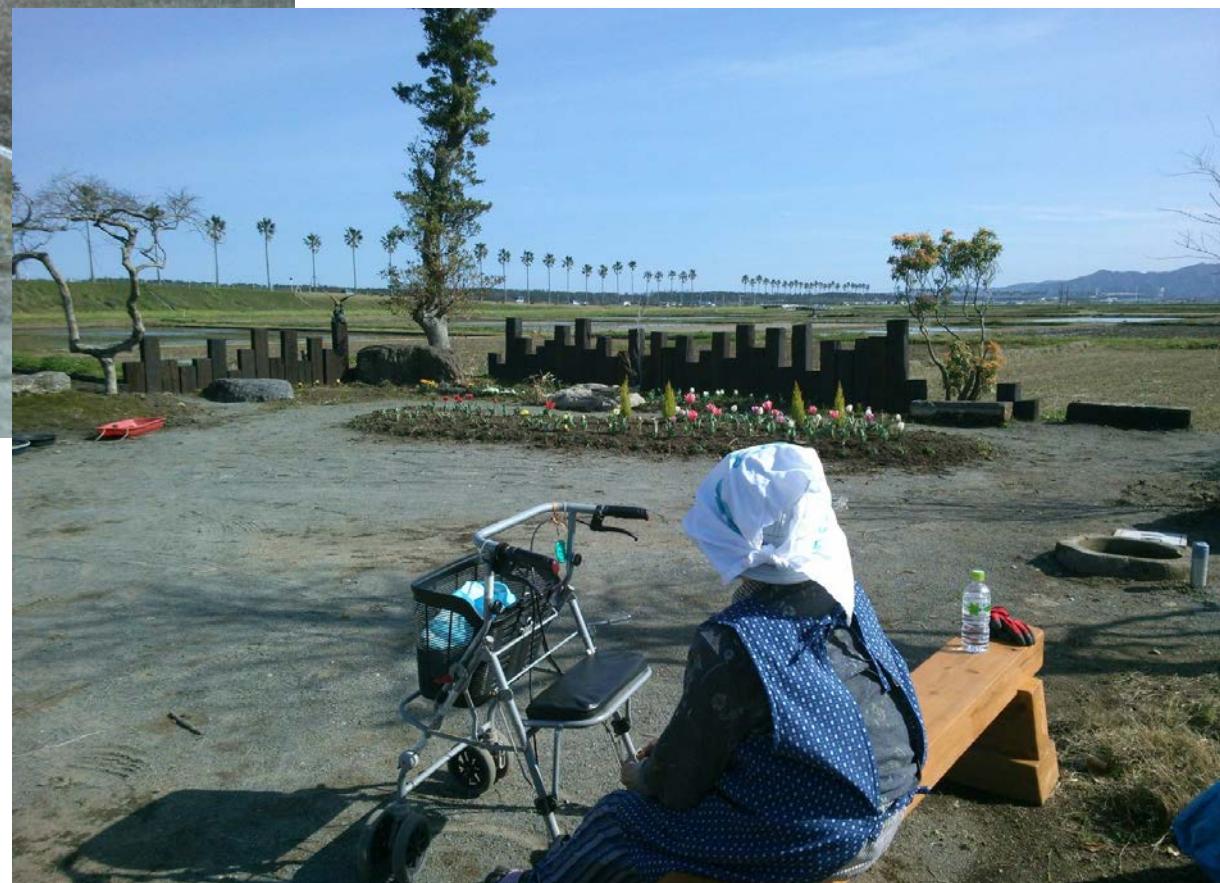








やさの
田園









人が集まるようになった
子供達も来るようになった











津波対策用の米作りが始まった





体に障害があっても
工夫して
同じ目線で参加してもらった







稻刈り

やすらぎの田園

共同作業所



施設の方にも参加してもらった
稻穂の中に入った
家族も集まつた









新米「ひのひかり」が750kgとれた。
高台の人々に備蓄の協力をお願いした。



地域の行事に参加して
笑うことが多くなった



祝 平成25年度敬老祝賀

敬老祝賀△云

一、開会のいとば

二、会長あいさつ

三、官崎市長祝辞披露

四、民生委員・福祉協力会

五、花束贈呈

六、乾杯

七、開宴

八、余興

九、唄

増田八重子(北江)

・三味線 鬼来弘子(北江)

・諸り 佐々原義美(東富)

・フサジス 川越光子(北江)

・踊り 湯地マツ子(北江)

・入場入り

十、お礼のことは

十一、閉会の

十二、



希望ヶ丘南自治会
健康と長寿を祝う会

健康と長寿を祝う会
一問会
女士高齢者の祝辞
五歳杯
おも様への祝
五歳会のもの
六舞踊
七独唱
八演説
九元老で歌いま
十問会





えさばる



祝賀会老敬分司郡叔

おめでたす日

えさばる

2009-1-25





笑いと音楽で
寝たきりの癌末期患者さんが踊った



僕が君の足になるよ！
背負子を開発した。
共に生きる喜びを実感した。









まとめ

- ・生きづらい時代に入って来た。
- ・生まれたら必ず終わりが来る。
- ・医療系の多職種だけでは解決できない超高齢化時代になつた。
- ・どんな時代、どんな環境であれ、協力、工夫、発想、夢、笑い、リーダーシップにより、地域の総合力を高め、豊かに生きる、寂しくない地域作りが求められる。